

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【社会科】

1. 対象 6年生

日本の歴史を学ぶことに対して、意欲を持っている児童が多くいる。社会科授業の前日には、本時に学ぶ内容の教科書を読み、情報共有アプリに分かったこと・感想・疑問などを入力する家庭学習を出している。教科書の細かい部分まで目を通して、コメントをする児童もいる。事前に内容把握をすることで、本時がスムーズに流れるようにしている。

2. 単元名 「武士の政治が始まる」（全5時間）

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	・源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いを手掛かりに、武士による政治が始まったことを理解する。 ・遺跡や文化財、地図や年表などの資料でまとめることができる。
思考力、判断力、表現力等	・世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現することができる。
学びに向かう力、人間性等	・武士による政治やそれにかかわる人物に関心を持ち、意欲的に追及することができる。

4. 本時の目標

元との戦いの様子が描かれた「蒙古襲来絵巻」から御家人がどう戦ったかを読み取る活動を通して、戦った御家人が何を求めて戦ったのかを考えることができる。【思考力、判断力、表現力等】

5. 授業展開【本時・単元】

解決したい課題や問い

本単元では、日本が今までに2度しか経験していない「外国から攻められた出来事」の一つ「元寇」の学習がある。戦法も武器も異なる強敵の元軍を追い返すことができたのはなぜなかと疑問を持ち、未曾有の危機を救った御家人の努力を調べ対話することを通して、「御家人はどのような思いで戦ったのか。」を考える。

考えるための材料

- ・元との戦い分かる「蒙古襲来絵巻」（御家人と元軍の戦い方の違いは何か。）
- ・教科書資料「モンゴルの広がり」（元がどのくらい勢力を広げていたか。）
- ・教科書資料「元軍の進路」（御家人と元軍はどのあたりで戦ったのか、なぜそこか。）

想定される活動

- ・元との戦い分かる「蒙古襲来絵巻」（御家人は一騎打ち。元軍は集団戦法であり火薬兵器がある。）
- ・教科書資料「モンゴルの広がり」（元はヨーロッパまで勢力を広げた強い国である。）
- ・教科書資料「元軍の進路」（対馬、壱岐、九州（博多湾）で戦った。船で攻めてくるため、朝鮮半島から最寄りの場所。）

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

※対話の方法（班形態、5分、「蒙古襲来絵巻からわかること」）

※対話や思考のプロセス武器、防具、戦い方の違い、戦いの結果（苦戦し命がけで元軍を追い払ったが、御恩の褒美がないこと）を読み取り、それでも国や家族を守るために2度目の戦いに挑んだ気持ちに寄り添う。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

「御家人はどのような思いで戦ったのか。」

- ・初めて見た火薬兵器や集団戦法はきっと怖かったと思うけど、国を守るために戦った。
- ・1度目の攻撃から学び、2度目に備えて土塁を築いた。なんとかして守ろうとした。
- ・行きたくなくても行ったのは、鎌倉幕府と御家人が御恩と奉公の関係で強く結ばれていたから。